



帳票C

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名: ニチイケアセンター函館桔梗

作成者: 村谷登美子

作成日: 令和 6年 10月 14日

運営推進会議における評価実施日: 令和 6年 11月 21日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	結果
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	お客様の権利や情報を守り地域で暮らし続けることが出来るよう、「お一人お一人の主体的な生活を支える」という理念を掲げ職員全員が共有し実践を心掛けている。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	B	出退勤時住民の方々と挨拶を積極的に行い、近隣のお店を利用する買物や行事等では入居者様と一緒に交流の機会を持てるよう支援している。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	2か月に一度の運営推進会議の開催を持ち、町内会関係者様、包括ご担当者様、ご入居者様・ご家族様にホームの方向性や近況報告し意見を頂きサービス向上に努めている。		
4	市町村との連携	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	事業所での事故報告やケアサービスの取り組み等について随時報告相談し連携を図れるよう取り組んでいる。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	毎月の職員研修や定期的に事例からのグループワークを行い職員一人ひとりの意識付けを徹底し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	A	家族から見ても身体拘束のない介護をされており、研修等にも取り組んでいる。包括からも要請があれば研修の講師に出向いていきます。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	A	年間計画から年に2回高齢者と障がい者の虐待防止の研修を実施し職員一人ひとりの意識付けを徹底し虐待防止に努めている。	A	研修会の実施や日常の業務での職員から入居者への声掛け等を虐待に繋がらないような意識を持ちながら取り組んでいる。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	当ホームにも成年後見制度を利用されていた入居者様がおり理解支援していた。また、研修会などの参加にて学ぶ機会を設けている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	契約時には時間を掛けて納得していただけるまで、説明し理解をいただいている。又、解約や改定等の際にも書面で提示し納得いただけるよう説明を行なっている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	苦情窓口や意見箱も設置している。又、ご家族様へ顧客満足度の調査アンケートを送付し改善に向けて取り組んでいる。	A	ホームの雰囲気も良く、常時ご家族やご利用者との関係性を築けており情報共有できている。ご家族へのアンケートも実施されている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	毎月のホーム会議にて運営方針についての落とし込みやカンファレンスでの意見をもたせたり、又随時面談等などで聞く機会を設けている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	職員個々の勤務状況に合わせキャリアアップ制度を導入している。個人面談では職員からの意見などを聞き、働き続けたい職場に繋げられるよう職場環境や条件の整備を行なっている。	B	職員の賃金がアップする制度があるのが良いと思う。雇用される側のモチベーションに繋がるので積極的に取り組んでほしい。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	法人内外の研修会への案内をし、スキルアップできるよう支援している。働きながら資格取得への受講や試験を受ける機会を設けられるよう取り組んでいる。	B	研修会の実施や資格取得への働きやすい職場環境を作るよう今後も取り組んでほしい。資格取得のための費用負担も会社側の援助があると、職員の取得への意欲にも繋がると思う。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	グループホーム協議会に入会しており、協議会からの研修等のお知らせを職員へお知らせし交流を図る機会を持てるように支援している。相互訪問等でサービスの質の向上にも取り組んでいきたい。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	入居者様主体にし、職員は共に生活を築く一員として喜怒哀楽を共にし支えあうケアに努めている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	感染対策を講じながら、面会や外出の機会を設けていた。入居者様が会いたい人や行きたい場所など具体的に情報を得て可能な限り実現していく様支援している。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

阪泉C

事業所名: ニチケアセンター函館桔梗

作成者: 村谷登美子

作成日: 令和 6年 10月 14日

運営推進会議における評価実施日: 令和 6年 11月 21日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 外部評価	備考
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	日々の生活の中で会話をしながら希望や意向を伺い、さらに日々の様子から言葉に出来ない希望、意向等を汲み取るように努めている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B	サービス担当者会議を開催し、入居者様・ご家族様・職員・訪問看護・協力医療機関からの情報や意見を活かしながら取りまとめ計画作成担当者で作成している。	B	ホームから発信されている「ほほえみ通信」の皆さんの様子からもチームで関わって支援されている様子が確認できています。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	日々の介護記録により、職員全員が統一したケアが出来るよう実践している。又、変化に気付いた点は朝・夕の申し送りで、職員全員が情報共有が出来る様になっている。	A	ホームの雰囲気も良く、ほほえみ通信の内容から日常の様子やご家族やご利用者との関係性を察しており情報共有できている状況が確認できています。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	通院介助や買物、外出等でホームが対応出来る事はご家族の了承を得て支援している。(別途交通費他)又、内科、整形外科、歯科、眼科、訪問看護など、入居者様の必要に応じて支援をしている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B	町内会の行事にはコロナ感染や職員不足から参加の機会を持つことができなかったが、七夕での地域交流や市の作品展などへの出展参加はできていた。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	希望する医療機関と連携し支援している。毎月の連携医訪問診療、緊急時往診、整形外科・眼科往診、訪問看護前による健康相談・相談、24時間対応の医療相談等必要に応じて入居者様の健康相談、病状の変化に対応している。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	入院の際は、病院関係者へはこたて医療・介護連携サマリーを活用し情報提供、又随時入院中の状態の把握に努め連携をとり、退院時には看護要約等の情報提供をしていただき、安心してホームに戻るよう体制を整えている。	B	サマリー活用し病院と連携をとり早期退院へ向けて受け入れ体制も整えられている。家族としても緊急入院の時も入院先の情報提供等の対応と退院後の受け入れ相談もできており安心している。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	重度化した場合の対応に係る指針を定め入居の際に入居者様又はご家族様等に対して当該指針の内容を説明し同意を得ているとともに、入居者様の事柄に応じて、ご家族様や関係専門機関等との協議を行って、最適な状況への対応に努めている。	B	本人・家族の意向を汲み、入院や看取りなど、その方に合った支援がされている。入居の際にもご家族に説明し実施しようとした時に協議をして対応して下さるので安心してしている。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	急変時対応や事故発生時に備えたマニュアルは研修会にて定期的に行っている。夜間急変時救急要請対応マニュアル、連絡簿は電話の所に掲示してある。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	災害時の避難経路提示、近隣や町内会役員との交流を持って協力をしていただけるよう協力体制を整え、年2回防災訓練の実施や職員研修で全職員の意識付けをしている。	B	日頃からの町会付き合いを通し、顔の見える関係作りを努力されている。災害は突然のことなので防災訓練の実施をこれからも継続していただきたい。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター函館桔梗

作成者: 村谷登美子

作成日: 令和 6年 10月 14日

運営推進会議における評価実施日: 令和 6年 11月 21日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 による外部 評価	記述
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	理念に基づき、入居者様個々への対応には、その人らしい生活の歩みを大切に受け止め、その誇りやプライバシーを損ねることのないように、職員が共有し臨んでいる。	B	ご利用者の表情や様子から穏やかに過ごされている様子が伺えます。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	日々の生活の中で、職員とのコミュニケーションを持って入居者様の希望や思いが表れるよう支援し、ケアを行動に移す前に必ず入居者様に意思確認を行い入居者様に決定権がある事を常に意識しながら行っている。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A	献立は、季節感、彩りのあるものとなっている。料理の過程や盛り付け、下膳、テーブル拭き等、休閑や体力に合わせ、お手伝いをお願いして、食事が楽しみのある時間となるよう努めている。	A	ご利用者様から食事が「美味しい」との声が聞こえてます。又、食事に関するお手伝い等も楽しみながら体力に合わせ取り組んでいただいている様子が伺えます。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	個々の状態に合わせた栄養バランスを考え、日々の記録をもとに食事形態や摂取量を把握しながら支援している。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B	個々の状態や習慣に合わせ、毎食後に口腔ケアの指導や必要時の介助を行い、就寝時の義歯消毒の実施や必要時の歯科往診の支援をしている。	B	食事がしっかり摂取できていると言う事は、口腔内のケアも適切に実施できている事だと思います。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	個々のタイミングをチェック裏で把握し、トイレへの誘導を行っている。姿勢に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。便秘予防として、朝食前のヨーグルト、オリゴ糖摂取で自然な排便を促し、ホーム内での歩行運動なども行っている。	B	排泄のリズムを把握し失敗を減らして、リハビリパンツから布パンツへの使用への取り組みをされているのは良いと思います。
32	入浴を楽しむことのできる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	予定日を決めているが入居者様の意向を確認しながら清潔保持できるよう個々の状態に合わせて必要・量みに応じて楽しく、気持ちよく楽しめる入浴の時となるよう支援に努めている。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	申し送りより睡眠時間の状態、活動状況の把握を行い生活リズム作りを行っている。眠れない時は傾聴や環境作りを心がけ安心して就寝できるよう対応している。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	職員は処方箋からの服薬内容やお一人お一人に合わせた介助方法等の確認実施を行なっている。特設時はDrの指示のもと調剤薬局と連携し支援している。	A	服薬については、医療機関との相談や連携もできており、適切に支援できていると思います。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	入居者様の能力に合わせ、生活の中での役割を持てるよう、職員全体がセンター方式アセスメントに関わり入居者様の生活歴を把握し、それを生かした支援に取り組んでいる。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	B	外出の制限も緩和され地域行事への参加の他、個別の声掛け町内の散歩や買物に出かける等、外出の機会を設けている。また、遠方の外出も家族の協力を得ながら支援している。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	C	ホームで家族様よりお小遣いを預かり、その都度入居者様の意向を確認し買物に同行し一人ひとりの状態に合わせお金の所持してもらい、物品を購入していただけるよう支援している。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	レクリエーション等による季節に合わせた手紙の作成や、希望に沿って電話でのやり取りが出来る様支援している。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	リビングをはじめ、共用部は広い間取りであり、温・湿度を適切に保っているよう調節している。季節感を大切に飾り付けし、清潔で安全な環境で、落ち着いた生活が出来るよう工夫している。	B	リビングなどの共有スペースの雰囲気良く、ご利用者が皆さん集って過ごされている様子が伺える良いと思います。

事業所名: ニチイケアセンター函館桔梗

作成者: 村谷登美子

作成日: 令和 6年 10月 14日

運営推進会議における評価実施日: 令和 6年 11月 21日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目・利用者一人ひとりの確認項目						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	入居者様の日々の言動に留意しながら、全職員が情報を共有し、ご本人の意向に沿った対応ができるようにしている。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	入居者様やご家族様からの聞き取りや、アセスメントを活用し職員間のケア・支援を統一し、その方らしい生活を継続できるよう心がけている。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A	毎日の体調確認やバイタルチェック、定期的な訪問診療及び訪問看護による体調管理や身体状態に合わせた環境整備の見直しを図っている。	A	日々の体調確認や医療との連携も図れており、特設時などもご本人の状態をご家族へもお伝えし支援できている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	入居前からの情報をもとに、入居者様の意向を確認しながら日課や習慣を継続できるように支援している。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A	各自室には、使い慣れた物や思い出の品を、使用や設置等ができるように対応している。	A	ご利用者の思い出の品や使い慣れた家具等の設置で、自宅で過ごしているように暮らせていると思います。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	B	入居者様の意向や希望に応じて、催事等の参加や観覧が出来るよう、戸外の外出支援を行っている。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B	個々の状態に合わせ、家事等の役割や日常での趣味・得意な事を続けられるような環境の場を提案提供している。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B	個々の気分や体調・体力等に合わせ、気の合った方とおしの団楽の時間や集団で楽しめるレク等に参加できる機会を待てるよう支援している。	B	リビングで過ごされている様子やレクリエーションや行事等を通して楽しく穏やかに過ごされている場面が見られています。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	B	個々の状態に合わせ可能な限り、本人の体力や能力を見ながら近隣・地域の方達との交流の機会の支援をしている。		
49	総合	本人は、このGHIにいてことで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B	全職員で楽しく笑顔で過ごして頂けるようなケアを意図しており、日々の言動の中で「ここに居れて幸せだね」とおっしゃって頂けている。	B	評価通りに取り組まれており、とても良いと思います。

総評

<包括課>2カ月に1度運営推進会議に参加させていただいていますが、「ほほえみ通儀」での利用者様がいつも楽しく笑っていて、会議に参加されるご家族と職員のコミュニケーションもしっかりと図れており、本人・家族に寄り添った支援をされていると感じております。同業者との交流が毎年課題となっているので、介護関係者間の懇話会や研修会があれば、積極的に参加してみても良いかもしれません。

<区長様>職員が一生涯やっていこうと思う。

<民生委員様>施設の雰囲気もいいし、職員が入居者の方々に気配りしていらっしゃると思います。入居者の方の生活を考えるというのはいへんですが、これからも頑張って下さい。

<武蔵様>本人の事を考えていただいている様子がわかります。情報共有、研修、訓練の実施は今後も続けていただきたい。職員の方には感謝しております。職員の方の資金・キャリアアップの制度の充実でモチベーションが上げればと思います。

<坂本様>会議に何度か出席しています。毎回、職員の方々が入居者の為に積極的に色々な事に取り組んでいる様子を感じます。個人的には今のままで満足しています。これからもよろしくお願ひします。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

NO13「同業者との交流を通じた向上」
・昨年度同様コロナ感染発生等もあり、実施することが出来ず今後に向けて取り組んでいきたい。
NO37「お金の所持や使うことの支援」
・特定の入居者様については買物等を実施しているが、お一人おひとりの希望や力に応じて支援していきたい。

参加者サイン欄

武藤 尚美	本多 恵
坂本 雅子	
沢館 宗子	
吉田 孝蔵	